

3

地域別プラン

はじめに

(1) 地域別プランの役割と内容

「地域別プラン」は、各地域の特性や課題・魅力を総合的に把握し、身近なまちづくりについての目標やその実現の方向を示すものです。

地域別プランは、各地域別の懇談会で意見を出し合い、検討してきたたたき台をもとに作成しました。□

また、企業が集積している海のまち（臨海部）については「京浜工業地帯再整備推進地区協議会」と意見交換しました。

テーマ別プランを縦糸にたとえるとすれば、地域別プランは横糸です。相互に関連させながら並行して検討を行いました。テーマ別プランのうち、地域に反映すべきものは、懇談会で議論されなかったことでも書き加えています。

(2) 地域区分の考え方

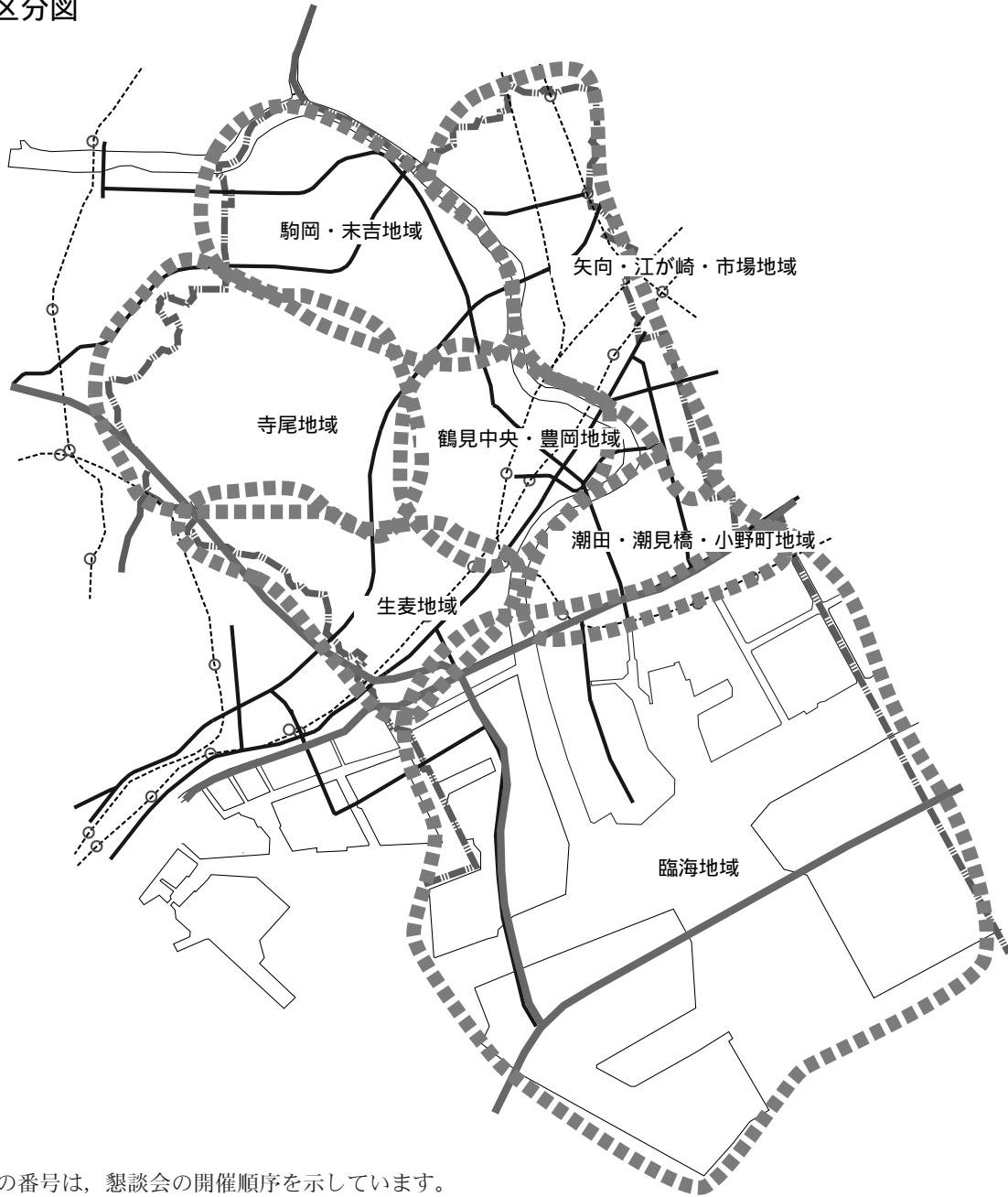
地域区分にあたっては、地形的なまとまりや市街地の同質性を考慮しました。地区連合町内会を基本的な単位とし、多様な意見が出やすく、かつ身近な地域と感じられる範囲を考慮して、2ないし5の地区連合町内会が1地域となるように設定しました。



地域別懇談会の様子



地域区分図

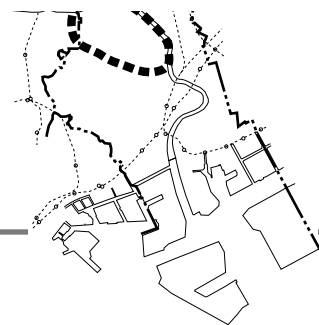


各地域の概要

地域名	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	世帯数 (世帯)	平均世帯規模 (人/世帯)
①駒岡・末吉	416.5	43,352	104.1	18,906	2.3
②潮田・潮見橋・小野町	223.8	35,318	157.8	16,639	2.1
③鶴見中央・豊岡	232.9	33,031	141.8	17,743	1.9
④矢向・江ヶ崎・市場	381.8	52,824	138.4	24,485	2.2
⑤寺尾	475.5	54,415	114.4	22,538	2.4
⑥生麦	258.6	39,928	154.4	18,625	2.1
臨海	1,137.3	69	0.1	48	1.4
区全体	3,126.4	258,937	82.8	118,984	2.2

*人口、世帯数は「町別世帯と人口」（平成13年7月末）による。

3.1 駒岡・末吉地域



まちづくりの目標

目標1 鶴見川や丘陵地などの地形と自然を生かす

谷戸の農地，森，林，池，川など多様で豊かな自然があり，生き物や潤いのある風景に身近に触れることができます。また地域に伝えられる歴史も多くが自然環境に関わる形で見にすることができます。

これらの自然環境は，できるだけ公共性の高い空間としていくとともに，管理面などで地域の人々も協力して後世に残していきます。

その際，地形や植生など土地固有の特徴を生かし，生態系や水循環などにも配慮していきます。

目標2 地区ごとの快適な住環境を確保する

地形や市街化年代等により土地利用や住民の年齢・家族構成が異なる様々な地区があります。中には，道が狭く建物が密集するなど防災上問題のある地区や，異なる土地利用が混在している地区もあります。

また総じて身近な公園や連続した歩行空間の整備が不十分で，特に障害者や高齢者等にとっては，まちに出づらい環境となっています。

誰もが安心して暮らしやすいまちとするために，自然や歴史など地域の魅力を生かしつつ，ユニバーサルデザイン^{注1)}の歩行空間や身近な公園などを整えていきます。さらに，土地利用の混在のあり方や密集市街地の解消などの課題に対応した，地区独自のルールを定めるなど，皆で合意しながらまちづくりを進めていきます。

目標3 地域生活の主軸として，末吉大通りの利便性を高める

末吉大通り（鶴見溝ノ口線）は，区内の南北を結ぶ主要な幹線道路です。地域住民にとっては鶴見駅への交通や日常の買い物の場として重要ですが，交通渋滞や商店街の弱体化などの問題があります。

そこで，地域生活の軸として末吉大通りを見つめ直し，スムーズな道路交通の実現と，地域の商店街としての活性化を図っていきます。

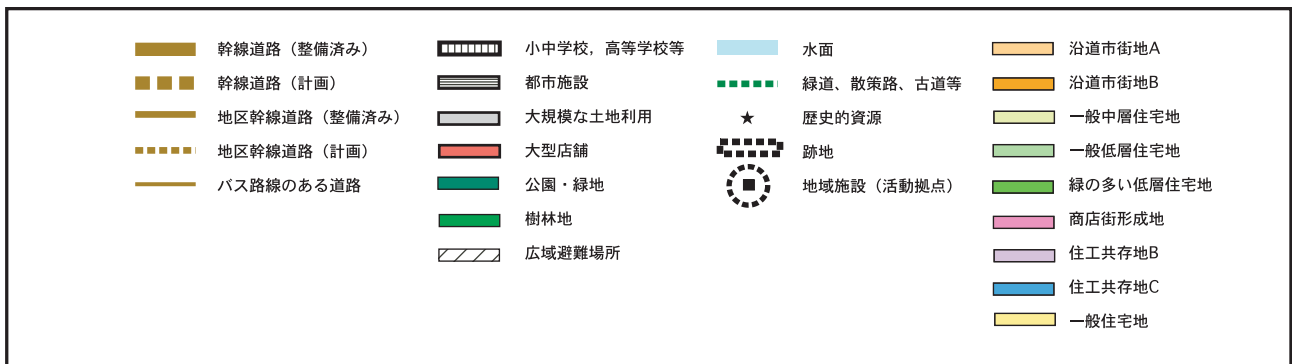
目標4 地域住民がもっと地域を知り，具体策を合意していく

上記のようなまちづくりを進め，生活上の共通課題を解決していくために，住民相互のコミュニケーションを活発にしていきます。また，地域の魅力資源や地域が抱える課題について，多くの住民が共有できるようにしていきます。

その上で，地域の人々が協力して地域の環境維持や改善に努め，具体的な推進方策について合意を形成していきます。

注1 ユニバーサルデザイン
20ページ参照。

地域の特性とまちづくりの方向



実現の方向

目標1 鶴見川や丘陵地などの地形と自然を生かす

三ツ池公園は、地域の広大なシンボル空間として、自然に親しむ場・運動できる場・花を鑑賞する場・災害時の避難場所など多様な空間をしつらえ、様々な活動に対応した皆に親しまれる空間とします。

市内でも自然度の高い池である二ツ池を、住民が利用できる緑地等として担保し、水質浄化や池の生態系を維持する仕組みを整えます。

また、地域の人々も環境の維持管理に協力できる体制を検討します。

公共的な空間として活用するにあたっては、都市計画道路大田神奈川線を二ツ池と調和するよう整備します。

減る一方の斜面林を残すため、「ふれあいの樹林」等の仕組みを活用するとともに、管理に携われる市民を増やし、ウグイスなどの小型の山鳥が生きる自然空間として保全していきます。

鶴見川は、さらに水質浄化、環境美化に努めながら、市民の憩いの空間として、また、水鳥が生息できる空間として、魅力の増進を図ります。

目標2 地区ごとの快適な住環境を確保する

公共公益施設、商店街、身近な自然のある場所などへ、高齢者や障害者をはじめ誰もが無理なく、歩いて行かれる道のネットワークをつくっていきます。

身近な小さな公園を増やし、利用者が中心となった管理運営組織をつくるなど、使いやすく親しみのもてる公園としていきます。

道が狭く、住宅が密集している地区では、地区住民に対する意識啓発を図りながらまちづくりのルールを検討し、避難路の確保や耐震改修の実施など防災に配慮したまちづくりを進めます。

いすゞ自動車工場跡地については、防災面や周辺環境に考慮しながら、公園、医療、福祉等の市民利用施設の立地を検討していきます。

住宅と工場が混在している地区では、お互いの立場の理解に努めながら住宅と工場が共存していくための方策を検討し、住環境や防災に配慮したまちづくりを進めます。

目標3 地域生活の主軸として、末吉大通りの利便性を高める

末吉大通りでは、交通渋滞の解消をめざして、路上駐車をなくすなどの対策を強化します。

バスの利便性向上などによる公共交通利用の促進や、広域的な交通体系の改善について関係者による検討を行います。

末吉大通りを中心とした商店街を、高齢者・障害者が利用しやすく急ぎの時に便利な商店街とするなど、地域に密着した買い物の場として活性化を図ります。

目標4 地域住民がもっと地域を知り、具体策を合意していく

古道、古墳、神社・仏閣、伝統的なお祭りなど、地域に数多く存在する歴史的資源を大切に残していきます。相互の結びつきを強化し、散歩の途中などに立ち寄れるようなネットワークを生み出していきます。

地区センターは「地域の茶の間」として、また、地域まちづくり活動の拠点として積極的な活用を図ります。

地域ケアプラザを中心に福祉・保健活動を推進するとともに、送迎のしくみを整え、誰でも気軽に利用できるようにします。

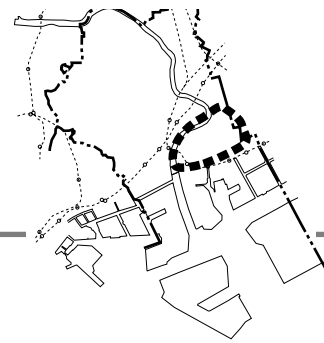
まちの美化のために、住民自らが行ってきた公共空間での花壇づくりなど良き伝統をさらに発展させます。また、豊かな自然環境を阻害するごみの不法投棄をなくしていきます。

地域でのまちづくり活動を活発化し、多様な世代やまちづくりに関心のある人々の参加を促すとともに、住民が責任を持ちつつ合意形成を図る参加の場と仕組みを生み出していきます。



三ツ池公園

3.2 潮田・潮見橋・小野町地域



まちづくりの目標

目標1 安心して住み続けられるまちを創りあげる

人情あふれる近隣関係をベースにした高齢者の多いまちであり、助け合いや支え合いなど福祉活動が盛んなところです。

今後、高齢者や小規模世帯が増えると予想される中で、様々な人が安心して住み続けられるまちにするため、下町らしい助け合いの仕組みを拡げていきます。また、コミュニティ施設相互を連携し、誰もが使いやすいコミュニティの場づくりを進めます。

商店街をはじめとするまち全体を子どもから高齢者まで誰でも使いやすいよう再生し、住宅更新や住み替えを円滑に進めるしくみを生み出していきます。

目標2 住・商・工が共存する活気あるまちを再生する

地区幹線道路などが比較的整い、住宅を中心に店舗や工場などが混在している地域ですが、商店街の活性化、まちの防災機能の向上、工場跡地の土地利用転換などの課題を抱えています。

住宅・店舗・工場が共存する活気ある下町として更新するため、戦災を免れた潮田・本町通地区を中心に、災害に強いまちづくりや商店街の整備・活性化を進め、歩行者や自転車中心の交通環境を整えていきます。工場跡地などで大規模な土地利用転換が生じる場合には、地域ニーズや周辺環境との調和に配慮して適正に誘導します。また、土地利用の転換が進む海のまちとの間では、飲食・業務サービス、レクリエーション、就業者の居住などを通して、連携関係を新しく築きあげていきます。

目標3 自然や歴史を大切にし潤いのあるまちを育てる

地域内には、鶴見川などの自然、潮田神社などの歴史資源、小中学校や高等学校、公園などの公共空間があり、まちの個性と魅力を醸し出しています。

より快適で潤いのあるまちにしていけるため、これらの地域資源を相互に関連づけながら、川辺の親水まちづくり、ハード・ソフト両面での歴史資源の継承、公園・学校などの公共空間での緑化を図ります。

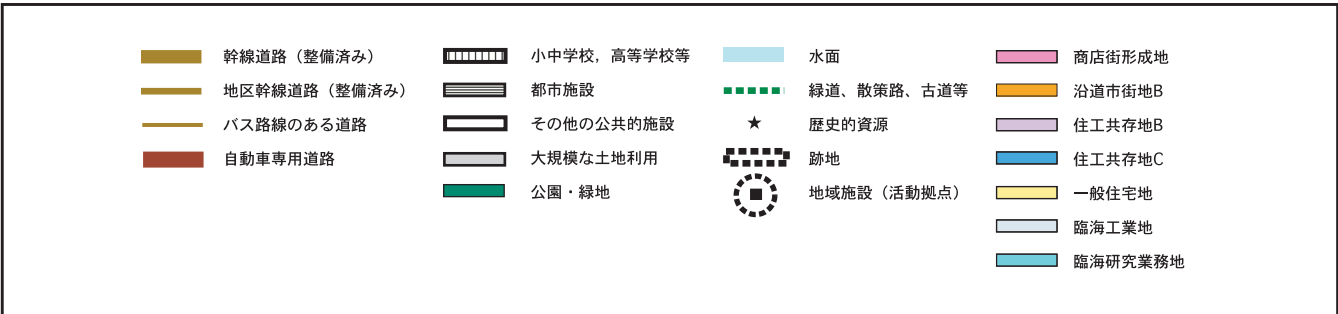
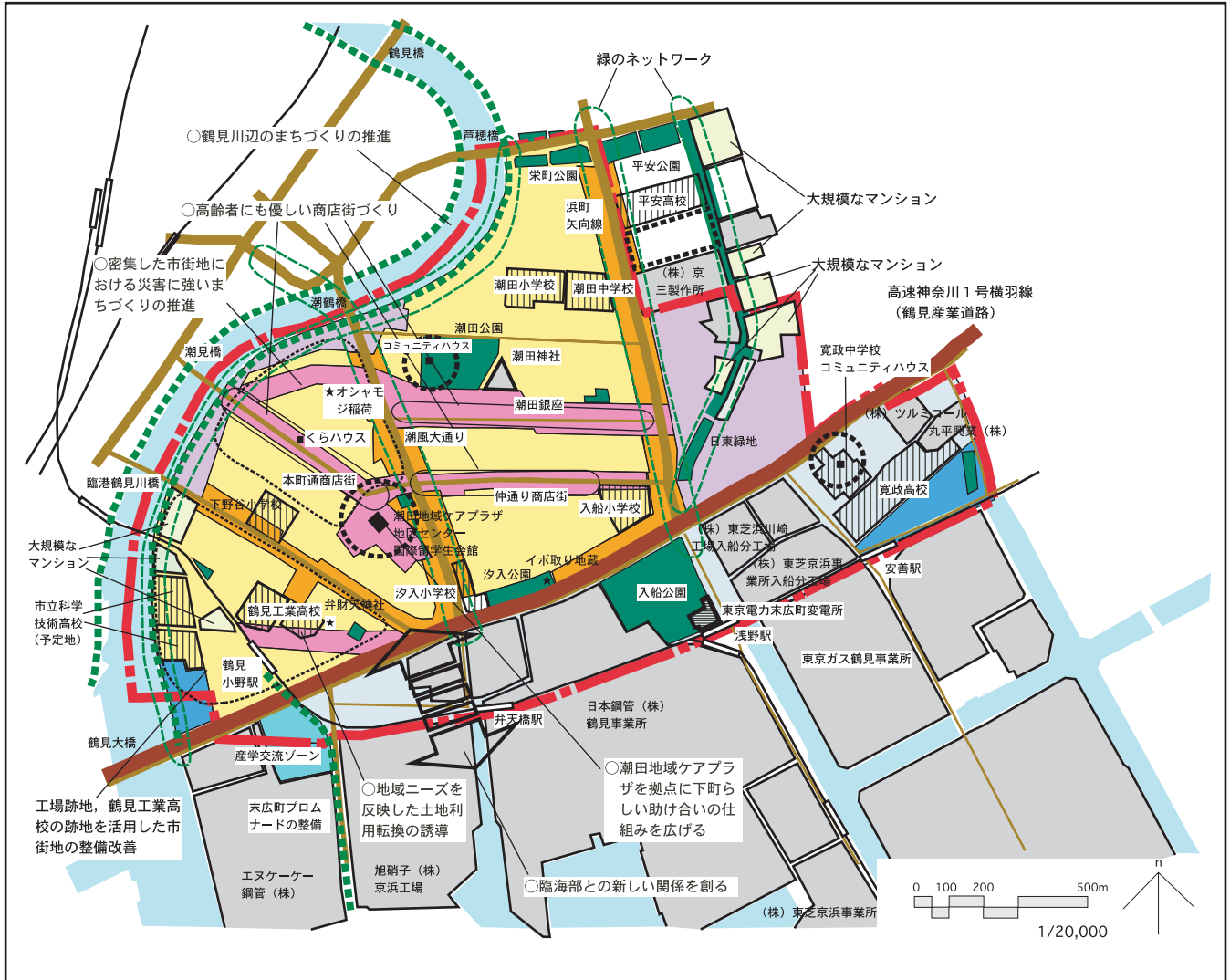
また、河川の災害時活用など、これらの空間を災害時にも使えるよう配慮します。

目標4 身近なまちづくりやまちづくろいを住民主体で進める

多様な住民やグループなどがまちづくりを協働で取り組めるよう、自治会・町内会やボランティアグループを中心に、高齢者と若者、旧住民と集合住宅の新住民、商店街と住民など、住民相互の交流を一層活発にしていきます。また商店主や職人を交えた下町的な交流や、留学生や外国人なども含めた国際色豊かな交流を一層強めます。

地域では、ごみの不法投棄、放置自転車などの問題を抱えています。美化や自転車・車利用などのルールづくりを住民間で進め、きめ細かなまちづくり、まちづくろい（維持管理）を進めていきます。

地域の特性とまちづくりの方向



実現の方向

目標1 安心して住み続けられるまちを創りあげる

- 潮田地域ケアプラザを拠点とする福祉・保健活動の充実と拡大を図り、地域の様々な技能を持つ人々やボランティアグループと自治会・町内会や商店街などが連携して、下町らしい助け合いの仕組みづくりを実験的に進めていきます。さらに医療施設や地域医療システムの充実なども検討します。
- 自治会・町内会館、商店街の空店舗や銭湯などの施設を対象に、コミュニティスペース（憩いの場）としての活用方法を工夫します。また、様々なコミュニティ施設の連携と活動の強化を推進します。
- 「潮田・本町通地区」で実験的な取り組みとして、密集市街地の環境改善などにあわせて、シルバーリフォーム^{注1)}、グループホーム^{注2)}づくり、良質な賃貸住宅の確保などを推進します。その際に、助け合いや交流が活発な下町の良さを残した、開放的な住宅づくりを検討します。
また、高齢者や障害者の住まいについての相談や情報提供を行う、地域でのしくみづくりも進めていきます。



潮見橋

目標2 住・商・工が共存する活気あるまちを再生する

- 下町ならではの高齢者や障害者にも優しい商店街づくりをめざし、誰もが利用しやすい施設やサービスのしくみを整え、歩車道の段差解消を進めていきます。また商店街の枠組みにとらわれずに、関係者を横につなぐ人材を掘り起こし、国際性を活かした商店街の魅力づくり、活性化を図ります。
- 潮田・本町通地区をはじめとする密集した市街地では、狭い道路の拡幅、古い建物の共同建て替えや不燃化、耐震改修の実施、まちかど広場の設置、防火用水の確保、地区計画の決定などにより、災害に強いまちづくりを強力に推進します。
- 鶴見小野駅周辺の工場跡地や鶴見工業高校移転後の跡地など、大規模な土地利用転換にあたっては、水辺のネットワーク形成、オープンスペースの確保、違法駐車・通過交通対策への配慮、地域の施設ニーズへの対応など、地域ニーズを反映した土地利用転換の誘導を検討していきます。
- 隣接した横浜サイエンスフロンティア地区の就業者をサポートする生活利便施設やサービスなどを検討しつつ、新たな産業・生活軸である鶴見末広軸の一部としての連携を図ります。

注1 シルバーリフォーム

障害者、高齢者が住みやすいように、手すりの設置、段差の解消など住宅を改修すること。

注2 グループホーム

22ページ参照。

目標3 自然や歴史を大切にし潤いのあるまちを育てる

- 潮見橋のかけ替えや鶴見川プロムナード・親水護岸の整備をはじめ、河川水の防災活用、緑化や花壇づくりと継続的な維持管理、エコライフ^{注3)}等水にやさしい生活スタイルの普及など、鶴見川沿いのまちづくりを進めていきます。
- 潮田神社等の歴史資源の継承と活用を図る工夫（案内マップ・冊子・サインなどの作成、タウンガイドなどで関心を高める活動）を行います。また、お祭や行事の担い手の拡大や養成、神社等の広場の活用などを進めます。
- より潤いのある市街地にしていくために、潮田公園等公園の再整備、学校敷地や道路沿道での緑化などを精力的に進め、公共空間の緑化・改善に努めていきます。潮風大通りなどのバス通りでは、停留所にあわせて緑陰を持つ休憩スペースの確保に努めます。
- 鶴見川水際緑道や日東緑地を活かし、緑のネットワークを形成するとともに、公共施設や商店街などをつなぐ歩行者系の道路網を形成し、歩いて用が足せるまちづくりを進めます。

目標4 身近かなまちづくりやまちづくろいを住民主体で進める

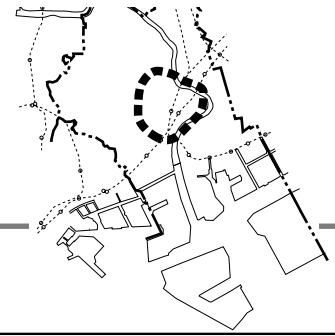
- 在住外国人の多彩さ、国際留学生会館の立地、沖縄出身者や国際交流グループの多さを活かして、言語・行事慣習・料理文化等を通じた相互学習や地域との連携を図り、多様な文化間の交流と相互理解を進めます。
- まちの美化活動をはじめ、マナーをわきまえた駐輪・駐車、身の回りの公園・道路における維持管理などの自主的な活動を盛んにしながら、お互いが快適に過ごせる住民間のルールづくりと住民活動の拡大を図ります。
- 子どもの生活環境、子育て環境の充実をめざし、小中学校や商店街の空き店舗などを活用して、青少年や子育て中の母親などの居場所づくりを先行的に検討します。また、小中学校と地域の人々の交流・連携を図り、児童生徒が地域の環境や活動について学ぶことができるようにします。



鶴見小野駅周辺

注3 エコライフ
19ページ参照。

3.3 鶴見中央・豊岡地域



まちづくりの目標

目標1 鶴見駅周辺の拠点性を高め、安全で快適な、移動しやすいまちをつくる

鶴見駅周辺は、区内最大の交通拠点であり、また業務・商業施設や公共施設が集中する場所として多くの市民が利用しています。

地域の生活拠点として、また鶴見区の中心拠点、横浜市副都心として、都市機能の一層の充実を図っていきます。また、歩行者、自転車、バス、タクシー、自家用車など、それぞれでの移動を、誰もが安全、快適にできるような環境を整えていきます。

目標2 地域の資源を生かし、魅力的なまちをつくる

地域には、鶴見川や既存の緑地などの自然資源や、総持寺、花月園などの歴史的・文化的資源があり、地域を特徴づけています。

これらの魅力的な資源を地域のシンボルとして活用していきます。さらに、相互にネットワークさせながら、まちの中に緑や花を増やし、うるおいのあるまちなみを創り出していきます。



鶴見西口オープンカフェ

目標3 身近な商店街や地域施設を充実し、暮らしやすいまちをつくる

鶴見駅周辺には、古くから豊岡、佃野、鶴見銀座（ベルロード）などの商店街や様々な公共施設が立地しています。

便利で暮らしやすいまちとしていくために、商店街は、地域の個性を生かしながら活性化するとともに、地域住民にとって身近で親しみある賑やかさを創り出していきます。また、市民利用施設は駅東西のバランスを考慮した整備や、利用者のニーズを踏まえた施設の充実・機能更新を進めます。

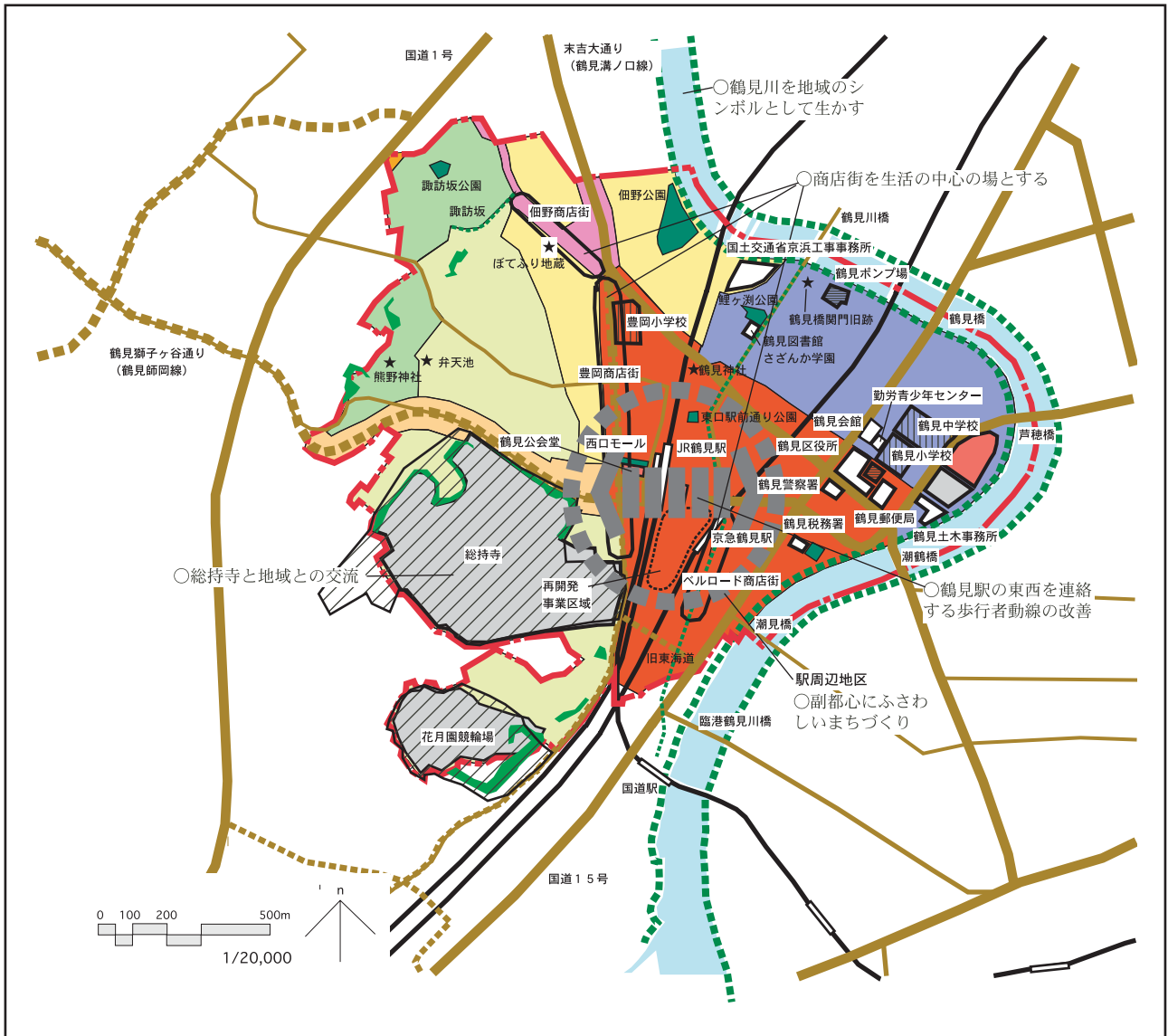
目標4 快適で美しい都市環境をつくり、維持する

鶴見駅周辺では、放置自転車やごみ、看板などによる環境の悪化が課題となっています。

ごみのない明るい環境づくりや放置自転車・看板対策など、市民のマナーの向上やルールづくりを具体的に進める必要があります。そのため、広範囲な住民の参加による「統一美化清掃」の定着、「鶴見西口オープンカフェ協議会」、「東口中央通りに花を飾る会」の継続と発展、放置自転車やポイ捨てに関する啓発、広告物に関するルール化を検討します。

あわせて彫刻・サイン等をきれいに維持する仕組みづくりを検討し、課題の解決を図っていきます。

地域の特性とまちづくりの方向



幹線道路（整備済み）	幹線道路（計画）	地区幹線道路（整備済み）	地区幹線道路（計画）	バス路線のある道路	小中学校，高等学校等	都市施設	その他の公共的施設	大規模な土地利用	大型店舗	公園・緑地	樹林地	広域避難場所	水面	緑道、散策路、古道等	歴史的資源	沿道市街地A	一般中層住宅地	一般低層住宅地	中心商業業務地	商店街形成地	住工共存地A	一般住宅地
------------	----------	--------------	------------	-----------	------------	------	-----------	----------	------	-------	-----	--------	----	------------	-------	--------	---------	---------	---------	--------	--------	-------

実現の方向

目標1 鶴見駅周辺の拠点性を高め、安全で快適な、移動しやすいまちをつくる

鶴見駅周辺の再整備を進め、業務・商業・サービス・文化・集会などの都市機能を高めるとともに、ゆとりと潤いのある空間をつくり出し、横浜市の副都心にふさわしいまちづくりを進めます。

鉄道による分断を解消するために、鶴見駅の東西自由連絡路や総持寺跨線橋の改善を検討し、あわせて、JR鶴見駅と京急鶴見駅の連絡を強化します。

親しみやすい道路名称・標識などによってわかりやすいまちにするとともに、高齢者や障害者も安全・快適に歩行できるユニバーサルデザイン^{注1)}の歩行環境をつくります。

豊岡通りや鶴見溝ノ口線のJR高架下などを含む、駅周辺の道路ネットワークづくりを進めます。豊岡通りについては、商店街と都市計画道路の整備のあり方について検討を進めます。また、交通規制等を含めて渋滞の解消、バス交通の利便性の向上をめざします。

JR鶴見駅への中距離電車の停車や横浜環状鉄道（シティループ）の導入、さらに京急鶴見駅への特急停車などにより鶴見駅のターミナル性を高めていきます。

新しい研究開発型の産業拠点となる海のみち（臨海部）と連携して、その玄関口である鶴見駅周辺に新産業の核づくりを進めます。

また、鶴見二、三丁目の工場と住宅が混在した地区では、鶴見駅周辺との関連を考慮して、まちづくりのあり方を検討します。

目標2 地域の資源を生かし、魅力的なまちをつくる

斜面緑地や社寺林、住宅や工場の緑など現在ある緑を守ると同時に、公園や通りを緑化し花を植えるなど、まちに緑を増やし、地域で守り育てていきます。また、眺めるだけでなく、市民が利用できる緑地の拡大に努めていきます。

鶴見川は地域のシンボルとして、住民の憩いの場にしていきます。このため、川沿いの遊歩道、公園、宅地などは自然を生かした整備を行い、緑を増やすとともに、川へ出やすい道路や連続した遊歩道を整備していきます。

旧東海道、諏訪坂、ぼてふり地蔵、弁天池、花月園、総持寺など、地域の歴史的・文化的資源を魅力的な空間としてまちづくりに生かします。これらの資源、鶴見川や丘のまちの自然空間、商店街などを結び、楽しく歩き回れるまちにします。

総持寺の空間・施設・行事などを地域の資源として生かすため、総持寺と地域との交流を図るイベントを行います。

注1 ユニバーサルデザイン
20ページ参照。

目標3 身近な商店街や地域施設を充実し、暮らしやすいまちをつくる

豊岡，佃野，ベルロードなどの商店街は，消費者ニーズにあったサービスの向上と各店の個性が輝く魅力づくりで活性化を図ります。さらに商店街が買い物の場だけでなく，地域住民のための公共的空間そして生活の場としての役割を果たしていきます。

既存の公共施設や自治会・町内会館は利用者ニーズに沿った柔軟な運営と機能の充実を図ります。

目標4 快適で美しい都市環境をつくり，維持する

駅前広場や公園などの美化とイメージアップを図るため，利用や管理についてのルールを検討します。また，清掃や花壇の手入れ，放置自転車対策，西口モールで展開している「鶴見西口オープンカフェ」（イベントや憩いの場づくり）や「東口中央通りに花を飾る会」（街路空間の飾花）などの活動を継続します。そのため，活動の主体となる事業者（企業，商店等）や住民が相互に協力できる仕組みづくりや，このような活動をコーディネートできる人材・組織の育成を図ります。

鶴見駅周辺地区整備の考え方

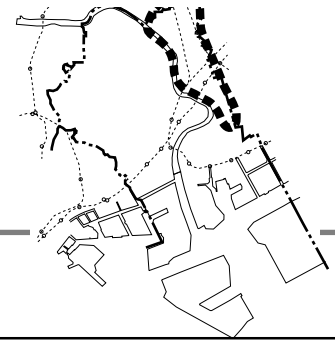


「鶴見西口オープンカフェ」，「東口中央通りに花を飾る会」などの活動を通して，自治会・町内会，商店街，企業，学校，ボランティア，市民グループなど，地域に関わる様々な人や組織の交流を広げます。さらに，まちづくりにこれらの人や組織の参加を促し，まちづくり情報の共有化を図り，地域の課題解決に向けて話し合い，協力していきます。

まちづくりや福祉に関連した市民のボランティア活動やコミュニティビジネス^{注2)}，高齢者や障害者の社会参加等を活性化していくための環境づくりを進めます。

注2 コミュニティビジネス
26ページ参照。

3.4 矢向・江ヶ崎・市場地域



まちづくりの目標

目標1 鉄道や川で分断された地域の一体性を高め、生活の利便性を高める

地域の北部（矢向・江ヶ崎・尻手）は、鶴見川と川崎市境に挟まれ、さらに地域内を南北に帯状に走る操車場跡地・JR横須賀線、それと平行して走るJR南武線があります。

また地域の南部（市場・元宮・平安）は、北部と同様鶴見川と川崎市境に挟まれ、さらに地域の東西方向にJR東海道線・京浜東北線、及び京浜急行線が走っています。

両地区は鉄道の走行本数が多く、踏切による通路は閉鎖していることが多いため、地域が分断されています。

通学・買い物等日常的な暮らしの利便性を高めるとともに、地域間の交流を促進し地域の活力を生み出していくため、地域内を連絡する幹線・地区幹線道路網や歩行者用通路、鉄道の横断箇所の整備、改善につとめ、分断された地域の一体性を高めていきます。

目標2 地域施設の充実や改善をすすめ、安全で住みやすいまちにする

南北道路の不足による道路渋滞が著しく、住宅地内の狭く歩道もない道路に、産業用車両をはじめとする通過交通が流入しています。

このため、安心して歩ける生活道路への改善と、狭い道路が多い地区の防災対策を進めていきます。

市場・元宮地区では、地域の分断も手伝って、区民利用施設の利用が不便になっています。既存施設の機能の多様化なども含めて充実していきます。

地域内の商店街は、安くて便利な商店街として活性化を図ります。

目標3 公園や緑、地域の広場を充実する

鶴見川沿いの産業を中心として発展したまちであることも手伝って、公園等のオープンスペースや緑が少なく、同時に、住宅地の密度も総じて高くなっています。

潤いのある住環境を整えていくために、公園やポケットパーク等、身近なオープンスペースの充実・活用を図ると同時に、鶴見川をオープンスペースとして活用していきます。

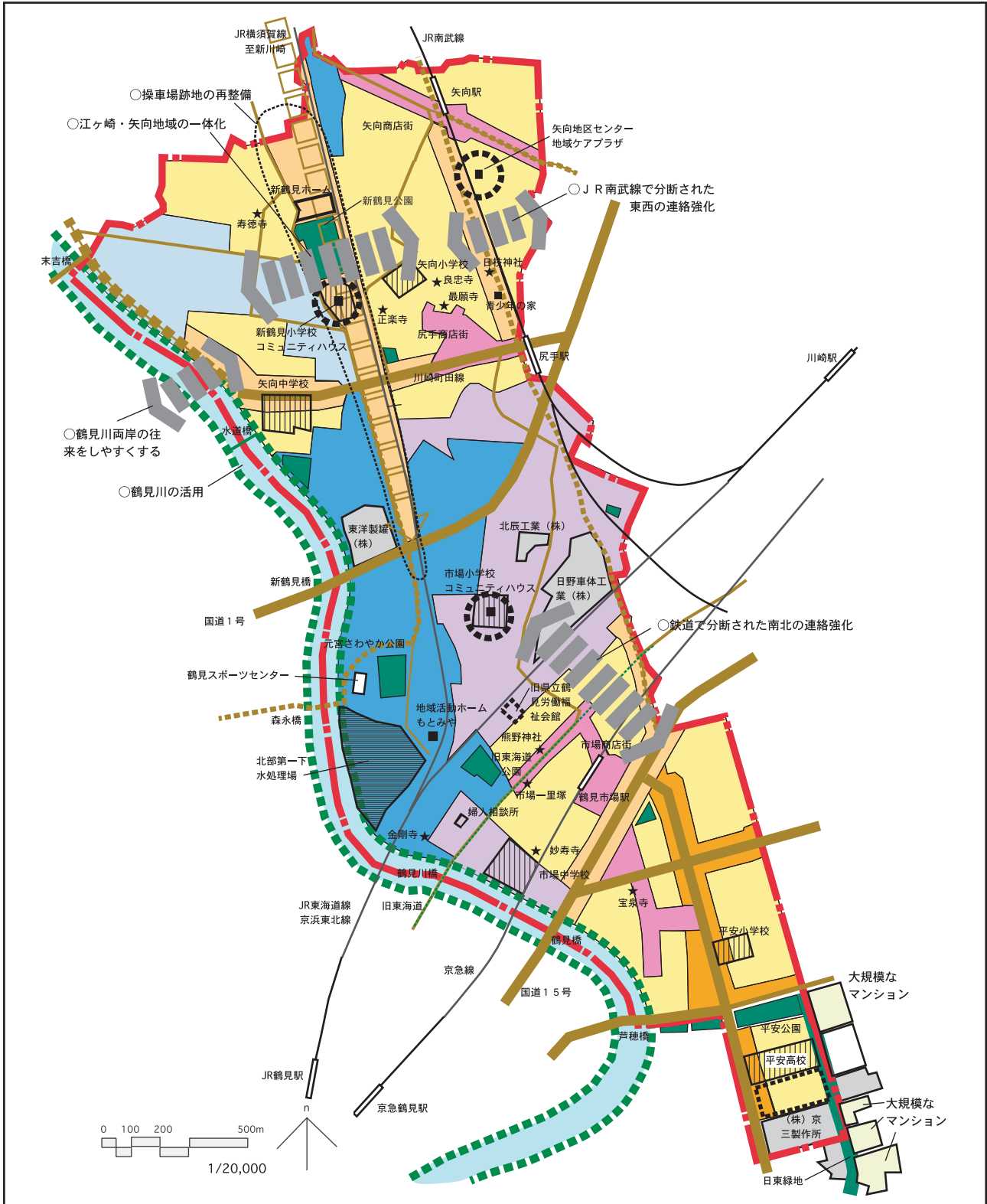
目標4 住民相互のコミュニケーションを活発にし、地域の歴史を活かしながら、まちをきれいに使っていく

下町的な人間関係の良さが残っている一方で、近年集合住宅も多く建ち始めています。新旧住民あるいは世代間のコミュニケーションを図りながら、まちづくりを進めていきます。

快適で暮らしやすく、活気のあるまちづくりを進めるため、この地域に残された歴史的資源をまちづくりに活かしていきます。

まちをきれいに使っていくため、ごみの不法投棄の防止を図ると同時に、花壇づくり等、まちをきれいに使うための運動を広げていきます。

地域の特性とまちづくりの方向



幹線道路 (整備済み)	小中学校, 高等学校等	水面	商店街形成地
幹線道路 (計画)	都市施設	緑道、散策路、古道等	沿道市街地A
幹線道路 (構想)	その他の公共施設	歴史的資源	沿道市街地B
地区幹線道路 (整備済み)	大規模な土地利用	跡地	住工共存地B
地区幹線道路 (計画)	公園・緑地	地域施設 (活動拠点)	住工共存地C
バス路線のある道路		商店が並んでいる地区	一般住宅地

実現の方向

目標 1 鉄道や川で分断された地域の一体性を高め、生活の利便性を高める

操車場跡地の再整備を進める中で、人道橋の整備や既存跨線橋の改善など、矢向・江ヶ崎地区がより一体化できる方法を、地元の意見を踏まえて検討します。

JR南武線で東西に分かれたまちの連絡強化と、東海道線・京浜東北線・京急線などの鉄道で南北に分かれたまちの連絡強化を図ります。このため、踏切等の改善、開かずの踏切の解消、立体化、隧道の拡幅などの方策を検討します。

鶴見川兩岸の往来をしやすくするため、末吉橋・新鶴見橋間の水道橋の改修を検討するとともに、末吉橋の架替えにあたっては、歩道の改善を推進します。

また、広域避難場所である三ツ池公園への避難ルートが不十分なため、安全な避難場所の確保について、川崎市との相互連携も考慮に入れながら検討を進めます。

鶴見区心部への交通手段、災害時の物資輸送手段、また観光資源として、水上バス等による鶴見川の交通利用の検討を進めます。

矢向・江ヶ崎地区から新川崎駅、鶴見駅、市場地区等へのバス便の改善を図ります。各地区を結ぶ小型バス路線について関係者による検討を行います。あわせて、バスで鶴見駅へ行きやすくするため、必要な道路の改良を実施します。

地域内の都市計画道路等の整備を進めるに当たっては、影響の大きい商店街と連携を取りながら、柔軟に進めます。

目標 2 地域施設の充実や改善をすすめ、安全で住みやすいまちにする

古くからの住宅地では狭い道路が多く、しかも、通過交通が多く進入してきます。歩行者が安心して歩ける生活道路の整備を進めると同時に、道路が狭い地区の防災対策の検討を進めます。

集会等に利用できる地域施設の充実と同時に、既存施設の活用や川崎市との相互連携による施設の活用を検討し、鉄道による地域の分断に配慮しながら、身近な地域施設の充実に図ります。

地域ニーズに合った商品を安く提供するなど地域生活に便利な商店街として、身近な商店街の活性化を図ります。また、地域の福祉活動との連携を図りながら配達サービスや配食サービスなども推進していきます。

操車場跡地には、小学校、公園、病院、特別養護老人ホーム等が立地しており、今後も市民利用施設の集積地としていきます。

目標3 公園や緑，地域の広場を充実する

乳幼児の子育て場所として利用しやすい街区公園やポケットパークを充実すると同時に，利用者の声を反映した公園のリフォームを進めます。

また，操車場跡地のオープンスペースを活用しやすいようにするため，歩行者ネットワークを充実していきます。

鶴見川をオープンスペースとして活用すると同時に，川へのアクセス路の整備の検討を進めます。

目標4 住民相互のコミュニケーションを活発にし，地域の歴史を活かしながら，まちをきれいに使っていく

新しく集合住宅に入居した人や仕事をもっている人など，多様な人々が地域に関われるしくみづくりを進め，地域コミュニケーションを活発にします。また，学校の課外活動を通して青少年と地域のコミュニケーションを活発にします。

矢向地区の寺町や市場の旧東海道筋などに残された歴史的資源を継承，活用し，落ち着いたまちなみを活かすとともに，夏祭りなどの行事を通じて地域の活性化を進めます。

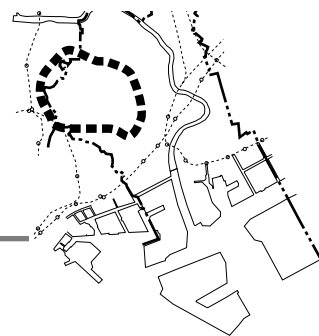
工場が多い地区に集合住宅等の立地が進行しているところもあります。望ましい共存のあり方やまちなみのルールを検討していきます。

ごみ不法投棄対策や未利用地・資材置き場等の適切な管理について地域で検討を進めます。また，まちかど花壇づくりを推進する等，まちを明るくきれいに使っていきます。



操車場跡地

3.5 寺尾地域



まちづくりの目標

目標1 丘陵地の緑などの自然や歴史資源を生かす

入り組んだ谷戸，斜面，台地により構成される多様な地形のなかに樹林地や池・湧水など，区内で最も自然が残されている地域です。

また，区内で唯一の市街化調整区域があり，そこには，農村的な景観が残されています。寺社や史跡などの歴史資源，赤門公園，花木園や獅子ヶ谷市民の森などの緑を生かした公園緑地，身近に自然が感じられる散歩道もあります。

これらの自然や歴史資源を大切に守り，育てていくため，地域の人々への情報提供を行い自然への関心を高めるとともに，地域の人々と協力して緑や歴史資源の保全，活用，管理を行っていきます。

目標2 多様な地形の特徴を生かした魅力的な住環境をつくる

丘陵地などの自然や見晴らしの良い景観に恵まれた良好な住環境を守り，より魅力的な環境としていくことが求められます。

一方，狭い道路が多く，緊急車両の通行に際し，難しい場所が多い地域でもあります。

このため，地区や街区ごとに景観についてのルールづくりを検討するとともに，住宅地内の狭あいな道路の改善を図ります。

また，快適に散歩が楽しめるルートを検討するとともに，点在する小公園を憩いの場として改善していきます。

目標3 マイカーに頼らないまちとしての利便性を高める

複雑な地形上に市街地が発展したため，主な移動手段は，徒歩とバスによっています。また，商店街や店舗の数が少なく，暮らしに必要な地域施設に行きにくい場所もあります。

このため，バス交通の利便性を高めるとともに，バス通りなどの主要な道路の改善を図ります。

また，高齢者や障害者などが外出しやすい環境づくりを行うとともに，生活福祉サービス^{注1)}の充実を図ります。

目標4 皆で楽しみながら生活できるまちをつくる

自然や歴史的環境に恵まれた静かな住宅地として，暮らしやすいまちといえます。

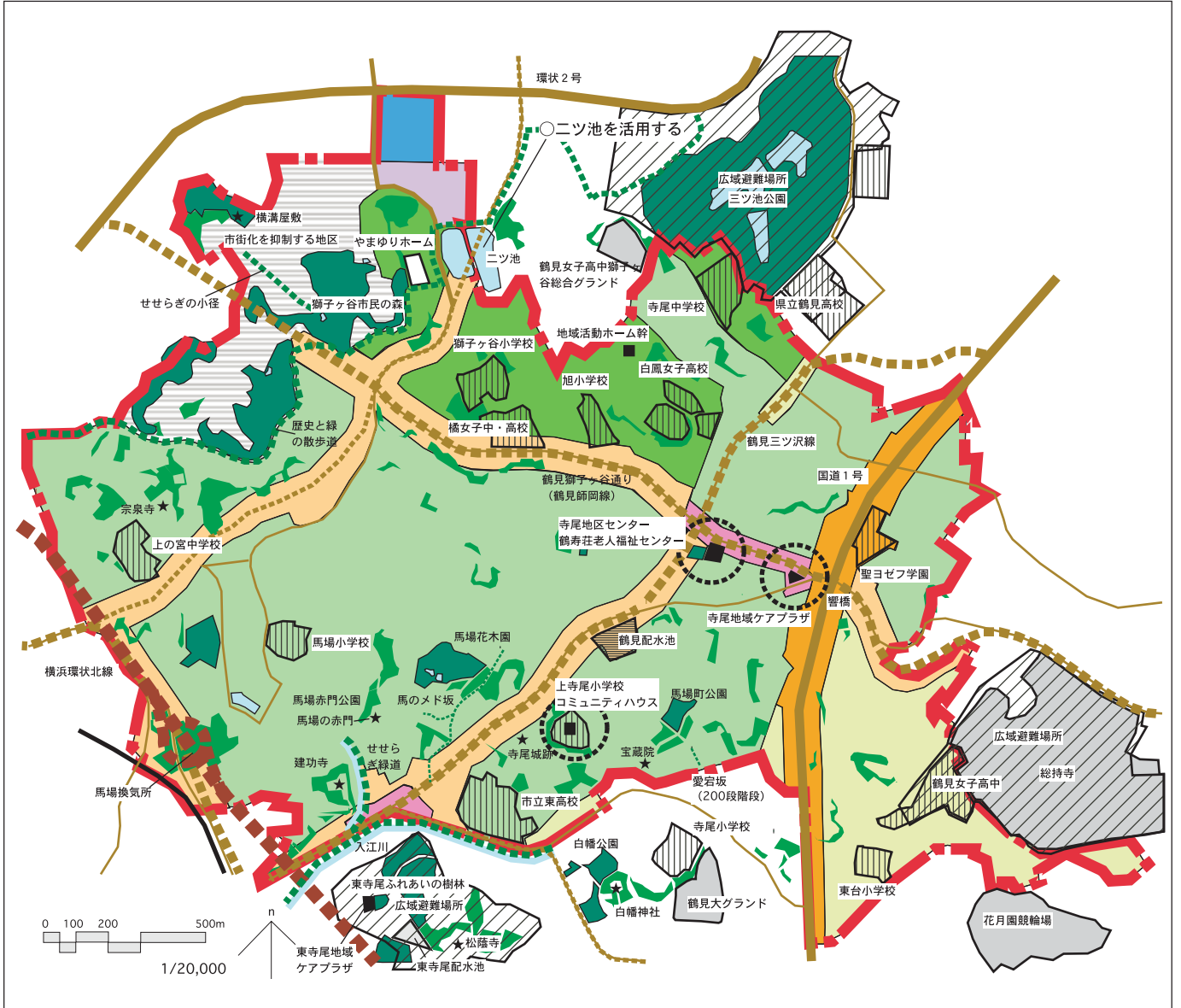
こうした環境資源を生かして自然観察や地域の行事などを皆で楽しむ中で，様々な世代の居場所づくりや住民相互の交流を図り，地域環境の維持管理や地域の課題解決へ向けて，みんなで考え，協力していきます。



獅子ヶ谷付近の住宅地と緑

注1 生活福祉サービス
22ページ参照。

地域の特性とまちづくりの方向



幹線道路（整備済み）	幹線道路（計画）	地区幹線道路（整備済み）	地区幹線道路（計画）	バス路線のある道路	自動車専用道路（計画）	小中学校、高等学校等	都市施設	その他の公共施設	大規模な土地利用	公園・緑地	樹林地	広域避難場所	水面	緑道、散策路、古道等	歴史的資源	地域施設（活動拠点）	沿道市街地A	沿道市街地B	一般中層住宅地	一般低層住宅地	緑の多い低層住宅地	市街化抑制地	商店街形成地	住工共存地B	住工共存地C
------------	----------	--------------	------------	-----------	-------------	------------	------	----------	----------	-------	-----	--------	----	------------	-------	------------	--------	--------	---------	---------	-----------	--------	--------	--------	--------

実現の方向

目標 1 丘陵地の緑などの自然や歴史資源を生かす

地域を特徴づける樹林地や池・湧水など残されている自然への関心を高め、保存の仕組みを検討します。また、住民による管理や緑化を推進し、大切に守り育て、活用していきます。

市内でも自然度の高い池である二ツ池を、住民が利用できる緑地等として担保し、水質浄化や池の生態系を維持する仕組みを整えます。

また、地域の人々も環境の維持管理に協力できる体制を検討します。

公共的な空間として活用するにあたっては、都市計画道路大田神奈川線を二ツ池と調和するよう整備します。

地域の自然環境と一体となった横溝屋敷、神社・仏閣、史跡、遺跡、古道、昔の地名などの歴史的・文化的資源への関心を高め、身近に親しむことができるよう活用していきます。



横溝屋敷

目標 2 多様な地形の特徴を生かした魅力的な住環境をつくる

地域の自然空間や歴史的空間、ランドマークとなる場所や見晴らしの良い場所などを結ぶ散策ルートを設定し、サインや休憩所を整備していきます。

多様な地形と緑や湧水に特徴づけられた住宅地や田園の環境を守るとともに、地域ぐるみでの緑化や景観のルールづくりなど魅力あるまちなみをつくりだすための活動を行っていきます。

狭く入り組んだ住宅地の狭あい道路の拡幅を進めるとともに、交通規制などによる通行の安全確保や防災対策を図ります。

また、急坂へのてすりの設置や段差の解消など高齢者や障害者も外出しやすく、安心して生活できる住環境をつくっていきます。

地域内の小公園は、子どもや高齢者など様々な年代の人々が楽しく過ごせるようにしていきます。個々の公園に特性を持たせて魅力的で利用しやすい公園として再生するとともに、地域の人々による管理運営に皆で協力していきます。

横浜環状北線をはじめとする都市計画道路の整備にあたっては、住民への情報提供や住民意向の把握に努め、住民の利便性・安全性の向上や住環境・自然環境への影響に十分配慮していきます。

目標3 マイカーに頼らないまちとしての利便性を高める

地域内外への交通手段として、既存バス路線の充実や、地域と連携した小型バスによる循環路線の新設などを検討し、バス交通の利便性を高めるとともに、地域の玄関口としてのバス停留所の利便性向上に向け、関係者による検討を行います。

バス通り等の主要な道路の歩道などの改善を図るとともに、路上駐輪・駐車対策や自転車の通行ルールを検討し、歩行者、自転車の安全な通行や車の渋滞の解消をめざします。

事業者による小型・中型バスなどの交通手段の確保や送迎バスの充実、歩行空間のユニバーサルデザイン^{注2)}化など、高齢者・障害者などが移動しやすい環境づくりを推進します。また、配達・出前・巡回サービスなど、住宅地への生活福祉サービスの充実を図ります。



花木園

目標4 皆で楽しみながら生活できるまちをつくる

福祉施設、地区センター、ログハウス、自治会・町内会館、小公園などの整備・充実、学校施設の開放を図ります。これらの場を活用し、防災の拠点、集会・交流の場、子どもの居場所や活動・運動の場を確保していきます。施設運営には地域や学校等が連携して、利用者の声を反映したしくみや体制をつくります。

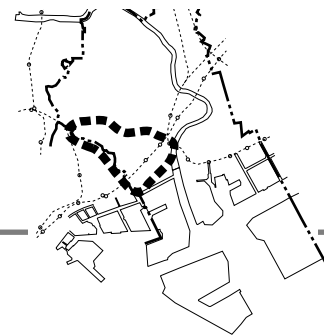
地域行事の活性化や子どもたちへの文化の伝承などを通じて、ふるさとと思えるまちにしていきます。

高齢者、子ども、障害者を含む多様な住民同士の相互交流を活発にし、お互いに気軽に声を掛け、助け合うことのできるコミュニティをつくります。また、さまざまなまちづくり活動の連携を深め、子どもも含めて誰でも気軽に参加できる活動や組織のあり方や、地域での情報提供、情報交換のしくみを工夫していきます。

地域の組織や住民グループ、学校などが連携、協力して地域の清掃・美化活動やマナーの向上に取り組み、ごみのないきれいなまちをつくっていきます。

注2 ユニバーサルデザイン
20ページ参照

3.6 生麦地域



まちづくりの目標

目標1 自然・歴史・文化等の地域固有の資源を生かしてうるおいのあるまちに育てる

鶴見川・入江川，旧東海道，魚河岸界限，総持寺・松蔭寺・安養寺・白幡神社・杉山神社等の寺社，岸谷公園，東寺尾ふれあいの樹林等の緑地があります。

また，鶴見大学・横浜商科大学・法政大学女子高校などの教育施設は町の個性と魅力の要素となっています。

より快適でうるおいのあるまちに育てていくために，それぞれの資源の環境整備や新しい資源の創造を進めるとともに，これらの資源を相互に関連づけながら，地域の公園・学校等の公共空間の緑化・改善，散策路ネットワークの形成を進めていきます。

目標2 環境に配慮した安全で快適な交通環境をつくる

国道1号，国道15号，JR及び京浜急行の交通幹線が横断しており，南北に地域を分断する要素となっています。

南北の行き来をしやすくするとともに，居住環境の改善・向上，歩行者に優しい生活道路への改善，地域商店街の活性化等とあわせて，安全で快適な交通環境を整備していく必要があります。

このため，バス通り，駅周辺や商店街を中心に，歩行者の安全性・快適性を向上させるなど道路空間の改善を進めていきます。

また，横浜環状北線，岸谷生麦線や岸谷線などの都市計画道路の整備にあたっては，事業計画の情報提供に努めます。さらに，歩行者の安全性・利便性や，大気汚染・騒音・振動等の環境対策に十分に配慮します。

目標3 地区ごとの快適な住環境を形成していく

地形や幹線道路網の整備，市街化の歴史などにより，土地利用が異なり，さまざまな環境を持つに至っています。

そこで，誰もが快適に暮らせるまちとするために，地区の魅力資源を活かしつつ，土地利用のあり方，幹線道路沿いの住宅地のあり方，密集市街地など防災上問題のある地区の改善などについて，地区独自のルールを定めるなど，皆で合意しながらまちづくりを進めます。

目標4 住民主体で地域コミュニティを維持回復し，安心して住み続けられるまちにする

今後，高齢者や小規模世帯の増加等が予想される中で，様々な人が安心して住み続けられるまちにするため，住民活動の拠点の整備を進めます。

自治会・町内会や地域活動グループを中心に住民相互の交流やまちの点検活動を始め，地域防災，地域福祉，まちの美化活動など住民主体できめ細かなまちづくりとまちづくり（維持管理）を進めていきます。



貝殻浜

地域の特性とまちづくりの方向



幹線道路 (整備済み)	小中学校、高等学校等	水面	沿道市街地A
幹線道路 (計画)	大規模な土地利用	緑道、散策路、古道等	沿道市街地B
地区幹線道路 (整備済み)	大型店舗	歴史的資源	一般中層住宅地
地区幹線道路 (計画)	公園・緑地	地域施設 (活動拠点)	中心商業業務地
バス路線のある道路	樹林地		商店街形成地
自動車専用道路 (整備済み)	広域避難場所		一般住宅地
自動車専用道路 (計画)			臨海工業地

実現の方向

目標 1 自然・歴史・文化等の地域固有の資源を生かしてうるおいのあるまちに育てる

鶴見川プロムナード，親水護岸の整備，河口の干潟（貝殻浜）の保全，川辺の自然回復，川に沿ったまちづくり区域を設定しての景観誘導など，鶴見川沿いのまちづくりを推進します。また，鶴見川を使った地域環境学習活動の促進や，エコライフ^{注1)}等水にやさしい生活スタイルの普及を図ります。水上バス交通など，鶴見川の積極的な活用についても検討をすすめます。

生麦事件碑等の史跡，鶴見線国道駅舎などの保全または活用を図るとともに，魚河岸らしい界限空間づくりを行い，活性化を図ります。旧東海道の歴史を感じさせる歩行空間を整備し，博物館を併設したビール工場や公園など新しい魅力資源ともネットワークする散策ルートをつくっていきます。

まちの歴史や資源を知り地域の環境を学習する活動を促進します。さらに，お祭り・行事の活性化や復元・創造（蛇も蚊も祭り，慶岸寺放生会，水神宮乗り初めなど）等まちを活性化する試みを進めます。

岸谷公園・白幡公園等公園の再整備，日産跡地のオープンスペースとしての利用など，緑を守り育てる取り組みを進めます。また，鶴見大学・横浜商科大学キャンパスや小・中学校，高校等の公共施設の敷地緑化，地域とのつながりの強化を図ります。長期的には花月園の地域活用などについても検討を進めます。

注1 エコライフ
19ページ参照。

目標 2 環境に配慮した安全で快適な交通環境をつくる

生麦駅，花月園前駅周辺の歩行者交通環境の改善整備を図ります。具体的には，雨の日も傘がぶつからず，乳母車・車椅子・自転車も通行できる跨線橋の整備，バス・タクシーの寄り付ける駅前広場の整備，駅前商店街の歩行環境の改善（歩行者天国，建物のセットバックなど）などについて検討をすすめます。

バス通りを中心とした道路は，歩行空間のユニバーサルデザイン^{注2)}化を推進します。ベンチ，トイレの設置や，バス停周りの環境改善，商店街のセットバック協定などによる歩行環境の改善などを進めます。また，違法駐車・放置自転車，置き看板等の撤去など，地域ぐるみの歩行環境の改善，管理活動を推進します。狭い通りに合わせた小型バスの運行についても検討します。

都市計画道路の整備・改善にあたっては，歩行者の安全性・利便性や，騒音・振動等の環境対策へ十分配慮します。また既存の生活道路については，歩道を確保したり，大型の通過車両の流入や夜間の通過交通を規制するなど，安全対策，環境対策を進めます。

注2 ユニバーサルデザイン
20ページ参照。

目標3 地区ごとの快適な住環境を形成していく

生麦地区は、木造住宅の不燃化・耐震化を促進し、狭い道路の拡幅を推進するとともに、防災の拠点となる防災公園と市街地を連絡する避難路を確保していきます。

市街地の更新・改善にあたっては、生活環境に配慮しながら海のまち（臨海部）の再整備との連携を図ります。

岸谷地区、寺尾地区などの丘陵部では、社寺林、斜面緑地、市街化農地等の保全と活用、由緒ある坂道や眺望の良い場所の修景保全、宅地の緑化推進などをすすめ、うるおいのあるまちづくりをすすめます。

国道15号沿道など、今後都市計画道路の整備が予定される地区では、土地の高度利用を図るとともに、オープンスペースや公園の確保、緑化の推進を検討していきます。

防災に配慮したまちづくりを推進するため、必要に応じ公園等にも防災設備を整えます。また、地域ごとの日頃の防災訓練を促進するとともに、ブロック塀の生け垣転換や門灯設置などの申し合わせによる生活道路の安全性向上をすすめます。

住民の生活圈や国道・鉄道による地域分断を考慮した広域避難場所の再配置について検討します。

目標4 住民主体で地域コミュニティを維持回復し、安心して住み続けられるまちにする

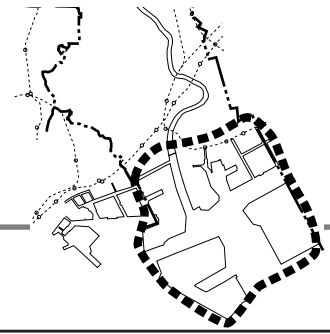
国道や鉄道で分断された地域特性を考慮し、岸谷・東寺尾地区へのコミュニティ施設、生麦地区への地域ケアプラザ等の施設の配置を推進し、これらの施設を拠点とする交流活動・福祉助け合い活動の拡大を促進するなど、地域の交流と助け合いの仕組みを広げていきます。

ごみ集積場所等を地域できれいにするしくみや道路や公園の里親管理制度の導入など美化活動の推進、地域ぐるみの斜面緑地等の維持管理の組織化など、まちの美化や使い方に対するマナー・ルールづくりと住民活動を広げていきます。



蛇も蚊も祭

3.7 臨海地域



まちづくりの目標

目標1 新たな産業空間としての再整備を進める

鶴見は京浜工業地帯の中核として発展してきましたが、産業構造の変化にともなって海のまち（臨海部）の機能や役割も変わりつつあります。大規模な工場跡地の発生等、土地利用の低・未利用化が進行しています。

海のまちの一部はゲノム科学総合研究センターをはじめとする研究開発機能を中心とした、新しい産業ゾーン（横浜サイエンスフロンティア地区）として再編されようとしています。

今後はこうした研究開発機能と関連し、既存産業の高度化や新産業の集積により、国際競争力のある新たな産業空間として再整備を図っていきます。

目標2 住民に開かれた地域としての活用を図っていく

海のまちは大部分が企業の所有地で、就業の場であるものの、住民にとって、身近な地域とはいえませんでした。しかし、既に企業等の演示施設^{注1}や展示施設が立地しています。

地域の再整備にあたっては、住民の生活と産業活動が調和する地域として、都市的諸機能の集積を図りつつ、開かれた産業空間として、既成市街地と連携した市街地の形成の形成を図ります。

また、レクリエーションの場としても活用できるようにするなど、生活の向上に資する、住民に開かれた地域として活用を図っていきます。

目標3 海に開かれた臨海地域の資質を活かし地域のイメージアップを図っていく

今後土地の高度利用に合わせて、水際線の開放、親水緑地の整備等によって、緑豊かな水辺空間の形成をすすめていきます。

また、防災機能の向上を図るとともに、ごみの不法投棄や暴走行為を減らす等、地域のイメージアップを図ります。

実現の方向

目標1 新たな産業空間としての再整備を進める

既存産業の高度化や新産業の創出に貢献できる新しい研究開発機能の集積を図り、鶴見駅周辺の副都心としての機能強化や既成市街地の再整備と連携し、新たな産業拠点としての充実を図っていきます。

海のまちの企業は環境マネジメントの導入を推進し、環境負荷の低減や廃棄物の発生抑制を徹底していきます。

大都市に近接し、大規模な敷地が多い特徴を活かして、都市活動を維持するリサイクル産業等の静脈系産業立地の検討をします。

新しい産業拠点形成のために、広域的交通インフラ（鉄道や道路等）の整備、既存の道路体系の再編を検討し、これまでの袋小路的道路の改善を目指します。

注1 演示施設
6ページ参照。

京浜臨海部再編整備の考え方



目標2 住民に開かれた地域としての活用を図っていく

産業拠点である海のまちを、住民の豊かであるおいのある生活を支える空間として位置づけ、区民利用施設の整備や住民が気軽に行きやすい交通環境を整えていきます。また就業環境の改善を図るとともに、学校をはじめ住民と交流する開かれた企業活動の促進を図ります。

末広町の横浜サイエンスフロンティア周辺地区では、住民が利用しやすいように、歩行者や自転車利用者が安心して移動でき、地区内を回遊できるような環境を整備していきます。

目標3 海に開かれた臨海地域の資質を活かし地域のイメージアップを図っていく

鶴見川河口部では、親水性を高め、潤いのある水辺のプロムナードを整備します。また、海のまちの土地利用の再編が行なわれる場合は、水際線をできるだけ開放し、水辺に近づいて景観を楽しむような空間の確保に努めます。

地域全体の防災対策を進めるとともに、災害時の物資搬入拠点としての機能整備を図っていきます。

鶴見線の機能強化や鶴見川を利用した水上交通の導入など、川のまちや丘のまちとの連携を強化するための交通基盤の整備を進めていきます。